

出題分析		
試験時間 120 分	配点 200 点	大問数 1 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>今年度は課題文として文章が 5 つ提示されており、それぞれの文章の主旨を説明したうえで内容をわかりやすく表す図を作成する問題と、現代の諸問題の中で最も重要だと考えられる問題について具体的な解決策およびその実現のための貢献方法を求める問題とが出題された。図の作成が必須であるのはやや変則的な出題と言えるものの、文章の主旨を捉える問題や具体的な問題発見・解決策の提示を求めるという出題傾向は例年通りである。全体的な分量は増加しているものの、数年分の過去問を解いた受験生ならばそこまで手こずる内容ではないと考えられるため、難易度は概ね昨年度と同程度と判断できる。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	<p>問 1</p> <p>(1) 5 つの文章の主旨をそれぞれ 1 文または 2 文 (60 字以内) で述べる。</p> <p>(2) 5 つの文章から 3 つ選び、それぞれの内容を一目でわかりやすく表す図を作成する。</p> <p>問 2</p> <p>(1) 自分が特に重要と考える問題を 1 つ選び、その「問題」の所在や本質を分析する (400 字以内)。</p> <p>(2) (1) で挙げた問題の具体的な解決策を述べる (800 字以内。絵や図を入れてもよい)。</p>	<p>課題文として 5 つの文章が提示されており、いずれも人間を含む生物とそれを取り巻く環境や情報およびその相互作用に関して述べている。</p> <p>問 1 (1) は各文章の主旨を述べる問題。(2) は 5 つの文章から 3 つ選び、内容を一目でわかりやすく表す図を作成する問題。いずれの文章も生物や環境等の関係性が読み取りやすく、図の作成にはそれほど困らなかっただろう。なお、例年と比較すると図の作成が必須になったものの、課題文の主旨を適切に読み取ることが求められる点に変わりはない。</p> <p>問 2 は冒頭の学部長からのメッセージと各文章を踏まえて、現代の諸問題の中で最も重要だと考えられる問題を提示・分析し、その具体的な解決策および実現のための貢献方法を論じる問題である。例年通り、問題発見・解決を主眼とした問題であるが、各文章に触れなければならない点に注意が必要である。また、昨年度と同様に、(1) で解答した内容がそのまま (2) に繋がってくるので答案の構成にも要注意である。</p>	標準

合格のための学習法

環境情報学部の小論文問題は様々な出題形式がとられるが、SFC の理念である問題発見・問題解決の能力を試そうとしているところは概ね通底している。それゆえ対策としては、まず、国内外にどのような未解決の問題が存在しているか、またそれに対して研究者や組織はどのように対処しているのかといった最先端の事項について積極的に知ろうとすることが大切である。そのためには、SFC の web サイトやパンフレットなどを見て、SFC の研究者や学生が実際にどのような問題に取り組んでいるのかを知り、さらに自分が SFC でどのような問題に取り組みたいかを考えてみるといいだろう。今年度の問題を踏まえると、「どのように取り組むか」「取り組みには何が必要か」など、取り組むべき事柄を分析して具体化していくと良い。

2021・2022 年度は読解資料がほとんどない出題だったが、2023・2024 年度は従来通り複数の資料を読んでその内容をまとめたり、共通点を抽出したりする問題が出題された。2025 年度は生成 AI を用いた要約文だけではなく、「問題解決の方法を見つけるための提案」「それを実現するための方法の具体案」を問う問題が出題されており、問題の本質を分析することが求められていた。今年度は複数資料の読解という点で総合政策学部の問題と同様であるので、読解力や記述力を養うためにも積極的に環境情報学部・総合政策学部の過去問演習に取り組むようにしよう。なお、環境情報学部では数学的な思考力や発想力が試される問題が出題される場合があるため、基礎的な数学の勉強も欠かせない。また、2018 年度は物語を創作する問題が出題されており、年度によっては図や絵が必須となる年もあるため、普段から様々な表現方法に触れておこう。